きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん

12月園だより

きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん

２０２４年度　年主題〈さあ、漕ぎだそう～奏でよう～〉

0･1･2歳児12月主題「うれしいね/わくわくするね」

月のねがい

◎クリスマスの雰囲気を全身で感じ、わくわくしながらイエスさまのお誕生を祝う
◎思いを言葉にしてもらうことで、安心し満たされる
◎冬の訪れの中で、いろいろなことを見たり感じたりして楽しむ

3･4･5歳児１２月主題　「共に喜ぶ」

月のねがい

◎神さまがイエスさまを与えてくださったクリスマスの喜びを周りの人と分かち合う
◎寒さの中でも戸外で遊ぶことを喜び、一人ひとりの日常が大切にされる
◎一人ひとりにいただいている恵みに気付き、アドベントの生活を経験する
◎寒さを感じる季節の中、体を動かすことに関心をもっていく

今月の聖句　「さあベツレヘムへ行こう」

ルカ2:15

今年もクリスマスの季節がやってきます。園では降誕劇が行われるだろうと思います。主役級のマリアやヨセフ、天使たちや３人の博士には誰が抜擢されるのでしょうか。そこにもドキドキワクワク感があります。私もキリスト幼稚園の園児だった時に、降誕劇に加わりました。私は男ですから、夫ヨセフか東方の博士が狙い目だったのでしょうが、羊飼い役を演じたのを覚えています。天使が現れて、羊飼いたちが驚く場面がある。ちょっと大げさなぐらいのリアクションをしなければならない。親に聞いてみたら、幼かった私は惜しげもなくリアクションをしていたらしく、主役級のヨセフや博士の夢は消え、脇役羊飼いに抜擢されたようです。けれども、聖書の中では、救い主誕生の報せを受けた羊飼いたちは、決して脇役ではなく、主役級の扱いを受けています。当時のユダヤ社会において、羊飼いの社会的地位は低く、差別されたり、虐げられたりすることが多くありました。世の救い主が生まれたのです。普通であれば、その知らせは王様に知らされ、宗教的指導者らに知らされて然るべきです。ところが神さまは、その報せをそういう人々にではなく、虐げられていた羊飼いたちに伝えたのでした。ここに、弱い者と共にいてくださる神さまのお姿、クリスマスの本当の意味が隠されているように思います。羊飼いたちはそれに応えて「さあベツレヘムへ行こう」と喜びの声を上げたのです。西之表基督教会では、１２月１５日の日曜日にクリスマスの集いを行います。是非、ご家族でおいでください。

協力牧師　池田基宣

令和７年度
入園資料配付中
２・３号入園についても園にご相談ください。

１２月の行事予定

4 日（水）	クリスマス会予行
5 日（木）	弁当日
14 日（土）	クリスマス会
18 日（水）	もちつき大会
20 日（金）	終園式（1 号午前保育）
28 日（土）	弁当日
30 ～ 1/3	年末年始の休園日

１月の行事予定

4 日（土）	弁当日
8 日（水）	始園式（1 号午前保育）
10 日（金）	12･1 月生誕生会（2 才以上
11 日（土）	役員会
18 日（土）	熊毛地区研修（職員研修）
23 日（木）	おゆうぎ会予行・弁当日

クリスマスに向けて…

近頃は、朝夕がうんと冷えるようになり、残暑が長く秋を感じる暇もないくらい、あっという間に冬がやってきたように感じられますね。日中との寒暖差や、空気の乾燥など体調を崩す原因が多くなる季節ですので、子どもたちはもちろんのこと、保護者の皆様におかれましても体調を崩さないようどうかご自愛ください。

さて、先日は無事に持久走大会も終えることが出来ました。他の行事も含めて度重なる雨天延期に、心苦しく思うばかりです。保護者の皆様のご理解ご協力のもと、子どもたちが元気に市営グラウンドを走り、またその姿を見て暖かく応援していただけたことに改めて感謝します。

行事の多い二学期ですが、いよいよ12月に入りこども園においては大きな行事の一つクリスマス会が近づいてきました。子どもたちにとってはクリスマスは1年の内の楽しいイベントの一つでしかないかもしれません。しかし、クリスマスという日がどんな意味を持つのかを知り、本当の意味でクリスマスをお祝いできるように、本番までの活動を味わいながら過ごしていってほしいと願っています。

めぐみ組、ひかり組の小さい子たちには歌や踊りで楽しい雰囲気を感じてもらい、あい組、のぞみ組にはもう少し踏み込んで聖書のお話（世界の始まり、イエス様のお誕生）を自分たちで表現する中で、クリスマスを身近に感じ、心からお祝いする気持ちを育んでいってほしいと願っています。

クリスマスに関する絵本は数多くありますが、今月紹介させていただくのは「いちばんちいさなクリスマスプレゼント」（ピーター･レイノルズ作）です。クリスマスプレゼントを楽しみにしていた主人公のローランド。ところがプレゼントは今までで一番ちいさくて…。大切なプレゼントは何だったのか、とても素敵なお話なので機会があればぜひ読んでみてくださいね。

（主任:圖師）

日々の生活の中で　どこかに

そもそも秋の短い種子島ですが、暑さが長引いた今年は、気がついたら師走という感じですね。園内は早くもクリスマスツリーやリースが飾られ、玄関前にはイルミネーションが灯され、気分はもうクリスマスです。

「シークレットサンタ」のお話をご存じでしょうか。以前テレビでも紹介されたようです。一九七一年、二三歳のラリー・スチュワートは、勤務していた会社が倒産してしまい路頭に迷ってしまいます。空腹に耐えかねてレストランに入った彼は、食事を終えてお金がないことに気づき、無銭飲食で警察に突き出されることを覚悟します。その時、一人の男性店員が、落ちていましたよと二〇ドル札を渡したのです。これは男性店員のポケットマネーでした。この二〇ドル札のお陰で無銭飲食をせずに済んだ彼は、警備関係の会社を起業し懸命に働くものわずか五年で倒産してしまいます。その後セールスマンとして懸命に働きますが、経営が思わしくなく解雇されてしまいます。再び途方にくれた彼が、ふと目にした売店でポップコーンを注文します。ところが売店の女性店員は間違ったものとお釣りをラリーに渡してしまいます。ラリーは女性の困ったような顔を見て、なんと二〇ドル札をメリークリスマスと言って渡したのです。その日はちょうどクリスマス。女性店員の喜ぶ顔を見てとても暖かい気持ちになったのです。それから彼は突然銀行に行き、なけなしの預金を引き出すと白いオーバーオールに赤い帽子をかぶって、ホームレスなど困っている人にメリークリスマスと言って二〇ドル札を配り始めたのです。シークレットサンタが誕生した瞬間です。その後、知人と長距離電話の会社を起こし成功者となります。シークレットサンタの活動を続け、与えれば与えるほど生活も豊かになり、家や車を購入できるようになっていました。内緒でシークレットサンタの活動を続けていましたが、九年目に妻にとうとうバレてしまいます。でも妻は言いました。「もっと困ってる人たちを助けれるように節約していかないとね」と。これまで彼は一切表に出ることはありませんでしたが、二〇〇六年ついにその正体を明かします。それはラリーが食道がんのため治療をしないと余命が一ヶ月もないということが分かったからでした。正体を明かした彼のもとには何と二日間で七千通もの自分もシークレットサンタをやりたいという手紙が届いたのです。癌になった後、その年のクリスマスもラリーは二〇ドル札を配り続けましたが、五八歳で生涯を閉じます。しかしラリーがなくなった後もシークレットサンタ協会が設立され、意思を継いだ大勢のシークレットサンタが、今も二〇ドル札を配り続けているのです。求める前に与える人生はなんと素晴らしいものでしょう。よいクリスマスをお迎えください。

クリスマスから始まったキリストに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学び、この世に生かされている驚きと喜びを分かち合い過ごしていきたいと思います。これから寒さも深まり、コロナと共にインフルエンザの感染にも注意が必要です。健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしになられますようお祈りいたします。

学園長

クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス･キリストの誕生を祝う日です。約２千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人たち、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教保育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きていってほしいと願い、祈ります。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

☆ひとりひとり神様に命を頂いて生きていること
☆ひとりひとり大切な働きが与えられていること
☆いい事も悪い事も選択できる自由が与えられていること

その自由の中、自分で考え、自分で選択し、自分で実行する時に、自己実現がなされます。その一人一人の選択した行いが神様に喜ばれる時、心も体も喜びに満たされ、希望の光として受け入れられるのです。たとえそれがほんの小さな行いだったとしてもです。

サンタクロースについて

サンタクロースの原型になったのは、４世紀初め頃のキリスト教聖職者、聖ニコラウスだと言われています。伝説によれば、ニコラウスはその相続財産を貧しく困っている人たちに分け与え、誘拐された子どもたちを助けたのだそうです。

クリスマスの絵本に”おばあさんのスープ”という絵本があります。（女子パウロ会出版）

一人暮らしのおばあさんが、雪の降るクリスマスの晩に、小さなお鍋でスープを作りました。食べようとしていた時、森からその匂いを嗅ぎつけてウサギやくま、きつね等次々に訪ねてきます。気のいいおばあさんは小さな皿にスープを分け、皆で食べたというお話です。皆で食べたほんの少しのスープはとても美味しく、寒さで凍えた体と心をほんのり温かくしてくれました。

クリスマスは神様が私たちに贈って下さったメッセージを思い出させてくれます。 それは、みんな神様に愛されているのだということ。その喜びをみんなと分かち合うとき、小さな喜びはもっと大きくなります。そしてもっと幸せになります。今年も子どもたちや保護者の方々と、クリスマスの意味を考えお祝いしていきましょう。　園長

きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん きりすとこどもえん